

公募による地域参加者の募集に寄せられたご意見

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

今あるガウス固化体の地上管理と再処理の廃止を求め
ます。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

ゴミが目の前にあれば人々はその存在をいつか心にと
どめて生残しなけりばならない。しかしゴミが目の前か
ら消えてしまえば人々はその存在を忘れてしまいかうだ。
地下敷目メーニルに埋め捨てられた高レベル放射線
廃物は人々に忘れ去られさるだう。そして高レベル放射
性廃物というゴミは次々と生産され続けると言う。
「後世代に負担を残さない」(体字版)のために地層処分
を行う。しかし「万一の事故に對する」「将来賠償制度
の確立」(体字版)が重要な課題を伴う処分なのである。
地下に埋め捨てられ何十年、何百年、何千年後には「
自然放射線」は比べ極めて少ない(体字版)といはれた
放射線の影響が現れたとき、誰が高レベル放射線廃物の
の影をたどると判定するのだろうか。
水俣病未認定患者の苦痛、原爆症認定を求めながら認
められない女性、エイズ患者被害者の苦しみ、闘い。到底
はあっても認定されることの少ない現状。認定されても補
った被害がゼロに近いわけではない。
まして放射線が人体に与える影響は研究の歴史が浅い。
福島、長崎、スリランカ、チェルノブイリ、原発事故
くらいしか具体的なデータがない。五十年経って濃縮
による放射線量の見直しがされた。放射線量はここ
では大丈夫という境界値はない。「微量を一回浴びるのと
微量を浴び続けることには意味が違ふ。少量だから大丈
夫でけなく累積すれば危険が高くなる」(体字版)。小
中・高校の集団胸部レントゲン撮影は取りやめられた。
遅か。だが明確な判断は。被曝限度内でも過剰摂取さん
の白血病患者、鳩鶴さんの命を奪った。
今あるガウス固化体は命のモニターメントとして地上管
理する。ガウス固化体は発生させる再処理は停止する。
原子力関連産業に於ては研究費用を自然エネルギー産業
に回す。エネルギーを消費しない社会を目指すべきであ
る。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

県市は核廃棄物処分場プロセスは固て明示。四者協定で心配なし。動機は何のための調査か答えられぬまゝ本格的調査に。深まるばかりの疑問。不安の現状と提言を述べたい。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

I 解明されない疑問、不信、不安

- (1) HL放射性廃棄物地中処分は早くから産官学一体の大方針があり、新に生ずる廃炉問題の行方と分らぬ
- (2) 動機は東濃岐阜県と4の県に最終処分場に整える本格的調査が始まっている。研究はこの地に適性条件と創出するものとなる?
- (3) キヤニスターの安全性と耐久性
この廃棄物は数十、万年と長寿命核種を含み、定証なき安全性は神話か幻想か。大科学者は「分った」とばかりにだけ」と言葉を残した。
- (4) 動機、地方首長との「好まぬまゝ」の四者協定はいつか、地元対策と引替えて、事実上空文化へ。
- (5) 地層処分は次世代への負担の解消か? 負担の解消の名の下、新負担の押し付けでは?

II 提言と要望

- (1) 地中へのバックはエンドに非ず、新たな恐怖と不安の始まりに水にも目をそむける地獄工は? 唯一被爆国では今こそ高い理想と道徳を原子力関係者に望みたい
- (2) 韓国といえぬ日本列島、自然への国の危険な挑戦では? 故に原子力に携わらない学究者等と広く意見を聞き、大膽に独自研究チーム化するなど、若き学究者の自らの時代の課題とすべく、成熟した時期と測えるまで、スケジュールと、バックエンドの時期の撤回も要望。

III 結句

深地層処分は唯一最善の道か? 地方も農業公園を挙げ、結論と急ぐ姿は、無敵日本軍襲撃の工廠の図では? 取り返しのつかない深地層調査は急がず、21世紀新時代の研究と学問の革新、進歩の力の理解の時代に期待し、それまでは地上で永く管理の道を模索すべきである。例え努力、費用が如何なるものにも。真実の物には早く蓋を」とあつてはならない。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

今後の取組みについては、国民合意形成の観点から、政策および技術の両面において、公正・公平・公開の原則のもとに具体的な方策を議論していくべきである。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

高レベル放射線廃棄物の処分が今日の重要な課題となっていることは、言うまでもないことである。そのためにこのたび懇話会での議論の報告がなされたものであるが、あくまで基本的考え方についての議論である。そこで今後、議論を具体的な方策に向けて進めることになると思うので、その進め方について意見を述べたい。

まず最初に「公正に」ということである。これは順次的に議論する手続として会議体を用いることから、その構成員の問題となる。今後の具体的な方策を議論するには小規模のグループの構成が必要であるが、その構成員の選定を公正に行うことであり、それが公正な議論につながるかと考える。そのためには、選定基準を明確にしておくことが必要であろう。

次に、「公平」であるが、これは「公正」と同様に構成員の問題であると共に、議論の進め方の問題であるので、第三者の立場の人が中立(調整)をつとめることである。それによって議論の公平さが保たれる。

最後が「公開」であり、これによって「公正」、「公平」が担保される。「公開」については懇話会でもとりたてて基本的考え方にかなり具体的に述べているのでそれ以上のことは述べることもないが、今後その具体化を特に望みたい。

最近の原子力界における問題発生の大まかな流れの一つが「実地併制」にあると思っている者にとって、高レベル放射線廃棄物処分の実地併制についてこれから議論を進めるに当たっての原則として、以上の三つを強調したい。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

情報公開は専門技術情報も、事業主体は国策的機関として実施するところから地域共生について各種のケースを検討し、地域の理解を協賛がうねらせることも望む。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

高レベル技術情報提供に関分について議論を進めるに当たっては、原子力の地帯問題と同様に、政策面と技術面と両面があることを、今回「基本的考え方について」の報告もその観念が入っているようにウケられたいが、さらに具体的には方策に議論を進めるための、課題を別々に分けておられることを思われるので、より以上にこれを意識する必要があると思われる。この観点から、現在までに、

まず、情報公開についてであるが、技術的・情報技術以外には、情報公開の観点から前向きでよいという態度を形成することなく、分けていくべきである。正しい形であり、また正しく求められれば、データも公開すべきであり、技術面でも国民の信頼感に結びつくものがある。

次に、地域共生についてであるが、国家の事業であるとして、研究・開発技術から実用技術への継承や、そこから、その技術はどのように国の機関が生まれたいと思う。なお、研究・開発技術への財政的負担は、最終課題として推進を講ずるべきである。

このことは事業全体の問題であるが、全国民が国民の利便に利用しているという考えを、今後の更なる推進するところから、全国民が公平に分担すべきであることは、もうあきらかである。

最後に、地域共生についてであるが、事業主体がどうあるかによって、具体的な方策がかなり異なると思われる。さらに、地域特性に合わせて実施する必要があるところから、様々なケースを想定して検討を進め、地域の理解を協賛がうねらせる必要があると思われる。

以上、当面のことは、いろいろと述べたが、今後も長期の展望に即して検討を進めたい。と、最後に、このように感じることがあることを説明したい。

(概要記入欄)

- 一にも二にもPAあるのみ
処に分気も術使はう題ない→技術者自信を持つこと
電気を技をう現世代の国民が担する

(意見記入欄)

の後しお
 も今とて
 たの人つ
 いへ一思
 て分の
 っ処者栄
 わ物加光
 携棄參を
 に鹿城と
 事性地こ
 仕射でた
 の放れ
 係ル会ら
 閃べ換え
 電レ交与
 免漏見を
 力『意会
 子のる機
 原こする
 元日開べ
 、本に述
 は、みを
 私が組見
 す取恵ま

か放も支来
 き、族を出
 とら家力が
 たか。子と
 したず原こ
 務しまのく
 勤まい私働
 てきて、て
 めてじがし
 初っ惑て心
 へ合をべ安
 所さのす、
 電つもの分。
 飛とのも存
 六て意一物
 全わも一ゆ
 、ます安。し
 国か
 問どつくが
 電に

業射る
 る立派なる
 ツ国
 がら究胸レ
 安
 年処私鹿れ
 密

鹿放れ
 いら鹿か
 こレ。
 はか研が低
 不
 来のを性
 くに

性ルか
 てか性し
 とフ事
 物だの分、
 の
 来け分自
 は何
 は聚と放
 を細

射べ拓
 れい射る
 ん大
 鹿だ自。私
 に
 で鹿門ル度
 明

放レが
 さな放す
 まバが
 射め者す
 枝
 屋大三レ
 と

ル富途
 出てル明
 集てA
 P
 放壇字張
 ま分
 古すか高
 すう。

べ、の
 しもべ説
 の全P
 放壇字張
 ま分
 古すか高
 すう。

低か過す
 て感高易、
 にに
 ルに科主
 し処
 名出と。担
 払す

のた、ま
 顧心。り
 場ろ二
 べ層やと
 得の
 。ら円す
 角をで

村してり
 固安すか
 球こも。
 レ地者々
 納在
 すか千ま
 に金の

所ま得あ
 分やま分
 やとにん
 高な究竟
 は現
 で証二り
 採料る

けいを人
 処性れ、
 ルう一せ。
 定研て民
 ち
 運家きな
 一気す

力線上の
 うま、つ
 合の楽安
 思回ホう
 角みでの
 すそら駁
 のなにな
 民、う

子射以り
 思りはわ
 のの鹿が
 に何やそ
 に進術下
 ま。な経。
 用機個れ
 国りよ

原放友周
 でお携民
 も業民う
 も場ら免
 は技地い
 いとのん
 賣濯一く
 でまう

海や親も
 のて半接
 国る亞国
 よ回役か。
 て学て思
 さこ物せ
 分洗がて
 寛つ私

東物は類
 たし後直
 くの、る
 何。いく
 し料しと
 なる聚
 ま処や人
 し感。を

葉に親し
 謝のも早
 て今はい、
 すよおく、
 にいちえ
 鹿り、座
 個分な
 す分

前、鹿物
 もま感代
 にもっ昨
 地てでま
 もてなは
 体な持言
 性あは
 鹿、処ん
 での

年性棄弟
 れを時分
 物祈、立
 しりいで
 い解目化
 題をて射
 も目冷は
 とその

敵射鹿兄
 くと役処
 棄をて場
 生然思こ
 體理番
 園鳴借っ
 放紀番
 ら用いも
 いた

30放性
 もてこ現
 の鹿とさ
 分往もと
 とをのこ
 スも自強
 ル心三か
 賣な物よ
 れ

物性こ
 処ち物い
 はト民
 う何にを
 べも
 夏分お聚
 ばか

(概要記入欄)

1. 安全かつ適実な処分制度、費用負担の早急な具体化促進。費用負担についての理解獲得活動の推進。
2. 研究施設の早急な整備。
3. 能力ある事業・地域共生の創出。

(意見記入欄)

1. エネルギー需要(最終エネルギー消費)に占める電力の割合は、現状、40%程度であり、21世紀にむけて、更に、増大が予想されている。
2. 現状では、この電力供給の重要な部分を原子力発電が、担っている。
3. 地球温暖化、酸性雨などへの対策として、風力、太陽光といった非化石燃料エネルギーが、主役とはなり得ず、原子力発電に依存せざるをえない。
4. 一方、このような現実を踏まえ、原子力発電に付随する影の部分である高レベル放射性廃棄物問題は、電力の利用者である我々現世代が、費用負担の負担も併せて負わねばならない事は、至極当然と考える。
5. 既に、廃棄物が、埋蔵している現在、その安全かつ適実な処分の方針の制度と、費用負担の具体化を早急に、整備、確立。国と電力による地道なPA活動を期待。
6. 他方諸外国では、地層処分施設に向けての研究開発はもとより、実施主体の設立、資金の確保など、処分の為の具体的な準備が進められているとのこと。
- とりわけ、諸外国での長期にわたる各国それぞれの地層での実証試験・データ取得の積み上げに匹敵する地層での研究が、一般の処分への理解と協力をとりつけるためにも、日本でも、早急に着手されねばならない。
- 動向の調査、東海での試験を生かし、研究施設の早期の整備を期待。
7. 安全性の確保、透明性のある制度の整備、責任体制の明確化、費用負担の具体化などに加え、地域住民の理解と事業主体への信頼が不可欠な要素である。審議会での検討案でも示されているが、「一人一人の身に迫った問題意識を持ってもらう」ことが、事業の地域受け入れの基本であるが、NIBBYに対して「地域住民にとって受け入れやすい共生関係」の構築あるいは、地域ユーズの引きだしは、今後のPAの推進の要を成すものと考え。

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

我が国の放射線廃棄物処分は現在どのような方法で行われているか。今後の研究計画と安全性の確保と山梨県民に対するまでの予定をお聞かせ頂きたい。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

我が国の経済発展は各種エネルギーを使用してきたことは誰でも認めることでしょう。各種エネルギーの内、安定性・効率性で有効な電力エネルギーは殆ど占め、今後も需要が伸びることでしょう。電力需要は資源の乏しい我が国では原子力発電が全体の約1/3と占めていくことも認めます。しかし、原子力の利用増大に伴い大量の放射線廃棄物が生じ、これをいかに安全に処理、処分するかが大きな問題であると思います。

ある人は「原子力発電はいらなり」と言うでしょう。では、我々の生活に低下させることなく、維持・向上させるためにはどうしたらよいのか(しょうか)。私は思うのです。風力・波力などの自然エネルギーが実用化するまでの橋渡しとして、安全を確保しながら原子力エネルギーを利用すべきだと思います。しかし、利用に伴い発生する放射線廃棄物は、旧り運ぶ行なわれたように公害です。最終的に何処かに廃棄するのではなく、利用した同が処理する必要があり、長期的な安全性の確保と山梨県民で支障をうけるべきと承知します。

島根である我が国の複雑な地質条件では、安定した欧米大陸の地質とは大きく異なっており、特に安定性についての日本独自の自然環境下での研究が必要であると思います。山梨の研究結果については情報的な内容はもううん、実用化する際には住民(国民)の賛同を得るべきだと考えます。

ここに以下の2点についてお聞き致します。

①現在、どこで、どのような研究が行われているのか？

②何年後に実用化する計画であるのか？

以上

氏 名

刈 田 陽 一

(年 齢 57 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

1. 放射性廃棄物の総合的な処理処分体系の明確化
2. 国が参画した永続性のある実施主体による処分事業
3. 推進側と規制側の明確な分離と各々のR&Dの強化

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

1. 放射性廃棄物の総合的な処理処分体系の明確化

HLLW以外にもTRU廃棄物やデコミ廃棄物その他があり、これまでは、個別対応的であり全体の整合性について疑問が生じやすい。使用済燃料を含めて放射性廃棄物処分の戦略を明確にし、地層処分という意味ではHLLWとTRU廃棄物(少なくとも)を含めて、処分方策、コスト問題を議論すべきである。

2. 国が参画した永続性のある実施主体による処分事業

HLLWの地層処分については長期間に亘る安全保障が必須であり、国民の付託を受けた国以外に責任もとれないし、国民(住民)の信頼は得られない。立地等に当たっては、長期に亘る粘り強い交渉と地域住民との深い信頼関係を築く必要から、国が責任を担保し得る独立の処分機構を作って推進することとし、顔の見える責任者が少なくとも10年程度役割を担うこと。

3. 推進側と規制側の明確な分離と各々のR&Dの強化

エネルギー・原子力行政は国民に安いエネルギー・電力を供給することであり、国民の健康や環境を守る責務は、環境行政で行うべき。環境サイドの規制によってチェックアンドバランスが果たれ、供給者サイドの一方向的押し付けがなくなる。結果的に国民(住民)の信頼が得られる。その為規制側のR&Dも強化し、異なる立場からの安全性の議論を行い合理的な処分につなげるべきである。R&Dや国民の理解を得る為に必要不可欠な地下研の確保も少しはやりやすくなる。また、環境行政側で規制を行うことにより、毒性廃棄物・一般廃棄物・産業廃棄物の処分との整合性ある(過不足のない)放射性廃棄物の処分が可能となり、理解も得られやすい。また地球温暖化ガス発生エネルギーとの比較も、客観性を増し、原子力平和利用の意義や位置付けが明確となる。

氏 名 橋 本 弘 士

(年 齢 55 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物処分の早期開始に向けて、国民一
体となり国民の信頼確保、コンセンサス形成に最大限の
努力を払っていただきたい。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

長年におたり原子力発電所立地地域に居住し地域の人々
との交流を通して得た経験から、また、大学で診療放射
線学科の学生に講義を行っている立場から次のことを申
し述べたい。

1. 日本が今後原子力発電を推し進め、再処理路線を
進むか否かは、国民の判断により決めることが重要で
ある。

2. しかし、日本が原子力発電を推し進め、再処理を行
うことは良識ある国民が、正しい知識を基に判断すべ
い。自ら行き着く方向であると思われる。

3. このため、徹底した情報公開、学校教育も充実させ
るなどにより正しい知識を普及させることが必要
であり、急務でもある。

この意味で高レベル放射性廃棄物処分相談会の報告
者「高レベル放射性廃棄物処分に向けての基本的考え
方」(案)中で、各論の最初に位置付けられているこ
とは大いに賛意を蒙りたい。

私の経験から、これに取って次の二点を付け加えた
い。

(1) 将来この方面の専門家として活躍するであろう、
また、オピニオンリーダーとして信頼されやすい放射
線専門の学生に對して正しい知識が普及されている
かなどは大きな懸念が残る。

この様な学生に、ハッキリと教育を最優先で行うこ
とが特に重要であると考えられる。

(2) 国民、地域住民の信頼を確保し、コンセンサスを
得るには国の先頭に立ち、民間化し、ハリスポートす
ることが重要である。

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」

総論賛成、各論反対との意見がある中で、現実的な立場にたち、高レベル廃棄物処分の必要性、また、現在の問題点について何が問題になっているのか、または検討すべき点は何か。具体的に区分し、短期的な問題、長期的問題に分け、あえて検討すべきであるとする。

具体的議論テーマ

1) 短期的テーマとしての処分について課題

地質構造的、地下水の流動性、社会性、安全性について、一概に短期的として論ずるのはおかしいが、取えて、処分開始から100年を1タイムと考え、ここでなし得る、技術的または社会性についての課題、また、その課題を解決すべく技術開発および社会性意見の統一を行って良いのではのではないかと考える。

2) 長期的議論テーマ

短期的テーマと重複するが、現在の廃棄物処分技術として、100年以降に見直し、または、検討すべき点は何か。

子孫に問題を先送りするようで問題であると感じるが、取えて具体性を見いだすための議論として意見交換としたい。

補足として、

CO₂等の地球環境的な問題を考えると、今後のエネルギー政策の中で原子力発電の重要性については現実的に無視できない状態であると思う。

氏 名 藤中 智恵美

(年 齢 42 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル放射性廃棄物処分問題を振り出しに床すこと。
核廃棄物を出し続ける原発を止めること。それから処分
方法を国民と共に検討すべきである。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

1995年8月21日、突然私達の町、瑞浪市月吉に超深
地層研究所が建てられるという計画を知った。それまで
私達には何も知らされていなかった。このことが、住民
の不安に結びつくのは極めて前のことである。瑞浪の
市議会にも当時の勸燃東濃地下学センター所長坪谷氏は
故意に「高レベル放射性廃棄物」という最も重要な言葉
抜きで説明をした。研究という名の元に市長、市議会を
騙し、協定書調印にまで強引に事を運んだのである。鳥
取県人形峠で勸燃は何をしたのか。地域住民の命もうば
い、現在もうランダムに捨て置かれている。このような
勸燃が中核的立場にある処分研究はやめるべきである。
そして国は早急に勸燃を切り捨てておくべきである。なぜな
らば、国税を使い、研究開発した先端科学技術の結果が
もんじゅ・東海村・ふげん等々の事故だからである。
又、原発を止め、限りある廃棄物量にすること。さもなく
ば、増え続けるゴミにおひえ、それがあせりにつなぐ
り、どうしても良いから捨ててしまおうという気持ちで引
き起こさなければならぬ。処分研究が冷静に時間
をかけた検討される環境を整えた上で国民と交えた話し合
いを数多くすることである。ちなみに瑞浪市長は、一
般家庭から出るゴミの分別収集の件で市民と何と200回
もの会合を持ったそうである。先ず騙そうではなく、国
民に正確な情報を提供することが必要である。
勸燃の確に言葉を抜き取った情報はサヤ行為に相当する
と思います。

応募用紙裏面

氏名 山本 一良 (年齢 49 歳)

(概要記入欄)

高レベル廃棄物のガラス固化、深地層埋設は、技術的に実施可能な処分方法。地道な研究開発を継続し、その情報を広く公開して、他エネルギー源を含めた検討の基礎とすべき。(80字)

(意見記入欄)

私は、名古屋大学大学院工学研究科原子核工学専攻において、核燃料サイクル工学講座を担当している。核燃料サイクルも範囲が広く、主に同位体分離に重点をおいて研究教育を進めてきたが、高レベル廃棄物処分も守備範囲なので、従来からこの分野の研究開発に深い関心を持ってきた。過日、高レベル廃棄物の処理、処分の方策が不鮮明であったころ、原子力はトイレ無きマンションと酷評された。この欠くべからざる高レベル廃棄物の処分に関し、関係者各位の地道な研究開発の努力の結果、ガラス固化、深地層埋設という方式が、技術的にも経済的にも成立し得るという確信が、ますます深くなってきたと思う。約20年前、重点的に地層処分の方式が取り組まれ始めた頃には、私自身にとって、この方式が地盤の安定した諸外国では問題ないが、地震国である我が国で成立し得るかという、一抹の不安感があった。しかし、人工バリア、天然バリアの各分野の一連のデータ蓄積に接し、また、いくつかの地下施設(神岡、東濃、釜石の各鉱山など)を見学する機会を得て、その懸念が一つ一つ払拭されて、人前でも自信を持ってガラス固化、深地層埋設が実施可能と発言できるようになった。これは、私が研究開発の現場からさほど遠くない所にいたからであり、一般の人々が約20年前の私と同じ不安を持っておられてもそれは当然のことだとも思う。この点について考えると、研究開発の分かり易い公開が、これからも重要であると強調される。また、地下環境を実感できる施設があればなおよい。深地層の研究施設を作り、そこでの研究開発の現場まで、関心のある人には実際に見てもらえるようにすることができれば、不安は安心へ少しずつ変わってゆくものと思われる。高レベル廃棄物処分のシステムが確立され、核燃料サイクルの輪が順調に動けば、次には有用金属の回収、トランスウランウム燃焼炉、熱源利用などの夢の話しもできると期待される。(800字弱)

氏 名 坂 入 武 孝 (年 齢 62 歳)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

高レベル廃棄物処分の問題は今後避けられない問題である。それを正しく遂行するためには、国が中心となり、地方自治体・民間が積極的に協力する形を作ることが必要である。

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

まず申し上げたいのは、高レベル放射性廃棄物の処分というのは、われわれにとって避けては通れない問題であるということである。文化的で快適な生活を送るためには、エネルギーはどうしても必要であり、そのためには原子力発電を積極的に進めなければならない。従ってその結果生ずる高レベル廃棄物の処分についても、それをいたずらに厄介もの扱いせず、快適な生活を送るために行うべき当然の行為だと受け止めるべきである。

従って問題はそれをどのように実行するかという方法論になるが、懇談会の報告書を見ますと、技術的にはまだこれはという決定的なものが確立されていないように見える。また、どのような処分方式がとられるにせよ、それは数百年あるいはそれよりもっと長い期間にわたる事業になるようである。

このような事業を間違いなく遂行してゆくためには、やはり国が中心になるべきだと思う。動燃における一連の出来事のため、国およびその関連機関に対する不信感が高まっているが、やはりこのような長期にわたる大プロジェクトを推進するのは国の責務であるし、また、国にはその能力があると思う。

ただし、国の力だけではすべてがうまくゆかないことももちろんである。廃棄物の主な発生源である原子力発電所を運営している電力会社、廃棄物処分場の立地地点を持つ地方自治体の協力はもちろん必要であるし、民間機関も、目前の利益につながらないことには手を出さない等という狭い考えを捨てて、国民全部の福祉のために力をかそうという姿勢が必要である。

このような複合体を効率よく運営してゆくことは難しい面もあると思うが、このように広い範囲の団体を取り込んで事業を進めれば、情報の周知にあたっても便利だし、事業が知らず知らずの間にある特定の方向に向かってしまうことも防げるのではないかと思う。